

2006年 後期

東北大学会計大学院アンケート実施報告書

---

*Tohoku University Accounting School*

東北大学会計大学院ワークショップ委員会



## 1. はじめに

東北大学会計大学院は2005年4月に国立大学法人として最初の会計専門職大学院として開設され、今年3月に初めての修了生を社会に送り出した。全国的にも、会計大学院は現在17大学院その収容定員は945名であり、社会からある程度認知され始めているものの、今後、専門的能力を有する職業会計人を養成するための教育機関としての評価を受け、その真価が問われていくことになる。

本大学院の目的は、グローバルな視野と高度な分析能力を持つ職業会計人を養成し、将来にわたりこのような人材を社会に提供し続けていくことである。この目的を達成していくために第一義的に重要なことは、会計大学院における教育であり、私たちは、社会が職業会計人に求める能力を把握し、これを学生への教育へと反映し、同時に、現在行っている教育が学生の能力やニーズに見合っているかを常に確認しながら、より効果的な教育方法を模索していく必要があると考えている。

会計大学院の歴史は始まったばかりであり、その教育方法については手探りの部分が多く、未だ確固たる教育方法が確立しているわけではない。本大学院では、開設以来、会計大学院における最善の教育方法・システムを求めていくための1つの手段として、毎セメスター終了後にカリキュラムと当該セメスターに開講された科目に関するアンケートを実施し、その結果を公表している。

このアンケート調査報告書は、在学生が私たち教員に対して発信したメッセージに対する回答である。この調査報告書を通じて、学生諸君が発したメッセージに私たちがどのような形で応えようとしているのか、私たちが今後会計大学院の教育をどのような方向へ進めていきたいと考えているのか、を学生諸君に理解して頂きたいと考えている。

この調査報告書は、会計大学院のホームページを通じて社会に対しても公開している。その意図は、東北大学会計大学院への入学希望者や将来私たちが教育した学生を受け入れていただく監査法人・会計事務所・企業・官庁の方々に本会計大学院でどのような教育が行われているかを理解して頂きたいという点にある。私たち教員は、この調査報告書の公開により、東北大学会計大学院へ関心が高まり、本大学院出身の学生が高度な分析能力を持つ職業会計人として活躍できる機会が増えることを期待している。

今回のアンケート調査報告書は、2006年度後期終了後に実施されたアンケートを集計した4回目のアンケートであり、完成年度を迎えた年度のアンケートとして、私たちはこれまで以上に重い意味を持つものと捉えている。この報告書で、私たちの2年間を総括し、改善すべき点を見だし、質の高い教育サービスを提供していきたいと考えている。

2007年6月22日

東北大学会計大学院ワークショップ委員会

## 2. 実施方法

本報告書の対象となるアンケートは、平成19年1月15日より受講者に配布され、1月中に実施・回収された。アンケートの種類は以下に示すとおりである。

- ①「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」（巻末：付録1参照）
- ②「会計大学院の授業に関するアンケート」（巻末：付録2参照）

従来、アンケートの回収は経済学研究科事務室前に回収箱を設置して行っていたが、回収率が低いため、今回から講義中に回収することとした。その結果として、前回と比べて高い回収率を達成することができた。

両アンケートともに無記名であり、①は1学生につき1回限りの回答とした。②は受講生が5人以上であるすべての講義について実施し（講義担当教員の希望により受講生が5名未満の講義についてもアンケートを実施している講義も存在する）、学生は受講している講義毎に回答を行っている。

本報告では、最初に①のアンケートの集計結果から、本会計大学院の教育システム全般に関する分析を行い、問題点を明らかにし、今後の対応について述べる。次に、②のアンケート結果を集計し、今semesterに開講された科目について、その教育内容・教育方法全般に関する分析を行い、その問題点を明らかにし、今後の対応を明らかにする。なお、本会計大学院は今年3月で完成年度を迎えたため、今回の分析では、2006年度後期の分析に加え、2年間の結果についても分析を行う。

本報告では、アンケートにより得られたデータを可能な限り数量的・客観的に分析したいと考えている。そこで、①における自由記述欄の内容については、次年度以降にカリキュラム編成を行う際の参考とし、重要と考えられる意見に対してのみ若干のコメントを行いたい。また、②における科目毎のアンケートの集計結果（アンケート質問項目17の自由質問を含む）と自由記入欄の記載内容は、次年度以降の講義の参考となるよう、担当教員に直接報告している。

### 3. 「会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート」に関する分析

#### 3.1. アンケートの実施状況

このアンケートは、2006年度後期に開講された50科目の講義（履修者計571名・集中講義も含む）で配布された。これまで3回行ったアンケートでは、サンプル数が少なく十分な分析が行えなかった。今期はこの点を考慮し授業中にアンケートを回収したところ、会計大学院の学生50名から回答を得ることができた（回収率62.5%）。この意味で、今回の分析の結果は、これまで行ってきた分析と比べ多くの学生の意見が反映されているものと考えられる。以下では、それぞれのアンケート項目ごとに集計結果を分析し、今後の対応を示すことにする。

#### 3.2. 集計結果・分析・今後の対応

質問項目2：基礎，展開，実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

##### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
適切である	6.67%	11.11%	42.86%	42.00%
ほぼ適切である	40.00%	11.11%	28.57%	36.00%
どちらともいえない	20.00%	44.44%	14.29%	16.00%
やや不適切である	13.33%	0.00%	14.29%	2.00%
不適切である	20.00%	33.33%	0.00%	4.00%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
回答数	15人	9人	7人	50人

##### 分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った。サンプル数が異なるため、単純な比較はできないが、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計ポイントが78%となっており、前回の71%から増加していることが分かる。また、「やや不適切である」が激減している一方「不適切である」が微増している。これらの結果は、多くの学生が基礎，展開，実践・応用の科目配置について大きな不満を持っていないことを示している。

##### 今後の対応

今回のアンケートは年度末に実施されたものであり、2006年10月入学の学生を除き、本会計大学院の講義を2セメスター以上受講している。また、前回と同様に、科目分類（基礎，展開，実践・応用）を示す資料を配付し、アンケート用紙の中でも科目分類に関する説明を行った。このため、今回得られた結果は、私たちの会計大学院のカリキュラム（基礎，展開，実践・応用の科目配置）に対する学生の評価を示しているものと解釈できる。

結果としては、前述したとおり、ある程度満足いくものであった。私たちはこの結果に満足せず、今後とも多くの学生が満足できるようなカリキュラムを考えていきたい。

質問項目 3：セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
適切である	6.67%	0.00%	42.86%	28.00%
ほぼ適切である	13.33%	33.33%	14.29%	20.00%
どちらともいえない	13.33%	11.11%	0.00%	22.00%
やや不適切である	26.67%	33.33%	42.86%	24.00%
不適切である	40.00%	22.22%	0.00%	6.00%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
回答数	15 人	9 人	7 人	50 人

#### 分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った。前回の結果と比較すると、「やや不適切である」が 43% から 24% へ大幅に減少したが、一方、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計ポイントも 57% から 48% へ減少している。しかし、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計ポイント 48% は、2005 年度前期・後期の結果と比較すれば、総じて高く、過去のサンプル数が少ないため単純な比較はできないが、セメスター間の科目バランスを適切であるとする学生の割合が増えていることを示している。

#### 今後の対応

上記の結果は、開設 1 年目に比べれば、セメスター間の科目バランスに大きな不満を持つ学生の割合が減少していることを示している。これは、今年度行った簿記の開講時期変更がある程度影響しているのかもしれない。今後、私たちは履修相談等を通じて、「やや不適切である」または「不適切である」と回答した学生について、具体的にその内容を調査していきたいと考えている。

質問項目 4：オフィスアワーを利用しましたか。教員に履修相談・質問等を行った回数を書いてください。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
5 回以上	13.33%	33.33%	14.29%	6.12%
4 回または 3 回	6.67%	11.11%	14.29%	14.29%
2 回	33.33%	11.11%	42.86%	16.33%
1 回	26.67%	22.22%	0.00%	14.29%
利用しなかった	20.00%	22.22%	28.57%	48.98%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
回答数	15 人	9 人	7 人	49 人

#### 分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った。これまでの結果と同様、オフィスアワーを利用する学生と利用しない学生の二極分化が生じていることが分かる。

#### 今後の対応

上述した二極分化の原因を探るため、2006 年度後期の履修相談においてオフィスアワーに関して学生に聞き取り調査を行った。この調査で分かったことは、講義終了後などに質問を行っているため、特にオフィスアワーを利用する機会がないということであった。

担任制を通じてきめの細かい履修指導・学習指導を行っていくことが私たちの大学院の教育の特色である。オフィスアワーがこのような教育サービスを提供していくための 1 つの手段とすれば、今回を含めこれまで得られた結果は満足すべきものとはいえない。今後とも、学生がどのような教育サービスを望むのかという観点から、オフィスアワーについても検討していきたい。

質問項目 5：セメスター開始時に行われる履修指導は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
役に立った	0.00%	11.11%	14.29%	18.00%
まあまあ役に立った	13.33%	22.22%	14.29%	32.00%
どちらともいえない	20.00%	11.11%	0.00%	18.00%
あまり役に立たなかった	40.00%	22.22%	14.29%	14.00%
役に立たなかった	26.67%	33.33%	57.14%	18.00%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
回答数	15 人	9 人	7 人	50 人

#### 分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った。これまでの結果を比べると「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計ポイントが 50% となり、大幅に増加していることが分かる。また、「余り役に立たなかった」と「役に立たなかった」の合計ポイントも 32% へ減少している。会計大学院開設後 2 年経過し、私たち教員が履修相談で学生に適切なアドバイスを行えるようになったという点を 1 つの理由としてあげることができよう。また、履修相談のマニュアルを整備し、履修相談の結果や内容について情報の共有化を図り、会計大学院運営委員会などでも意見交換を行ったことが、緩やかな効果として表れているのかもしれない。

#### 今後の対応

上述したように、「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計ポイントが増加し、「余り役に立たなかった」と「役に立たなかった」の合計ポイントが減少するというのが、これまでの傾向である。これは、私たち教員が、会計大学院における履修指導に慣れてきたことを示している。しかし、現時点における「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計ポイントは 50% であり、この数字だけをみれば、まだまだ満足できる水準に達しているとはいえない。

今後、学生が何を履修相談に求めているのかを調査し、多くの学生が満足するきめの細かい履修指導を行えるよう努力していきたい。

質問項目 6：本大学院では GPA による成績評価を用いていますが、GPA によって学生の能力は適切に評価できると思いますか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 年後期
適切である	0.00%	0.00%	0.00%	14.00%
ほぼ適切である	13.33%	33.33%	0.00%	16.00%
どちらともいえない	46.67%	55.56%	71.43%	38.00%
やや不適切である	0.00%	0.00%	0.00%	16.00%
不適切である	40.00%	11.11%	28.57%	16.00%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
回答数	15 人	9 人	7 人	50 人

#### 分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った。これまでの結果と比較すれば、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計ポイントが増えていることが分かる。特に、これまで「適切である」と回答した学生はいなかったのだが、今回初めて「適切である」と回答した学生が 7 名 (14%) となった。一方、「やや不適切である」と「不適切である」の合計ポイントは 30% 程度であり、GPA に対して否定的なとらえ方をする学生も存在する。

## 今後の対応

前回のコメントでも述べたように、GPA が単なる成績評価システムではなく、自己の成績の管理システムであるという点を学生に理解してもらうことが必要である。今後とも、履修指導等を通じて、この点を学生に理解してもらうよう努力していきたい。

GPA が学生に受け入れられるためには、シラバスに成績評価基準が明記されており、かつ、この基準に基づき評価がなされることが必要である。また、学生が成績評価に対して疑問を持った場合、私たち教員はその疑問に答える義務がある。会計大学院では、2006 年度の学生便覧に「成績に関する異議申し立ての手続」を記載し、これをオリエンテーションや履修指導を通じて周知した。

前回報告におけるコメントと同様に、私たちは、学生の能力を適切に測定できるよう、シラバスに示されている成績評価基準を継続的に検討していくことも必要と考えている。

質問項目 7：講義の予習・復習・宿題にかかる時間以外に、公認会計士試験のための自主学習には 1 日平均何時間くらいかけていますか。

## 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 前期
5 時間以上	33.33%	11.11%	0.00%	32.65%
4-5 時間	0.00%	0.00%	0.00%	16.33%
3-4 時間	26.67%	0.00%	0.00%	8.16%
1-3 時間	33.33%	44.44%	57.14%	28.57%
していない	6.67%	44.44%	42.86%	14.29%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
回答数	15 人	9 人	7 人	49 人

## 分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った。今回の結果は、約半数の学生が講義以外の受験勉強を 4 時間以上行っていることを示しており、これまでの結果とは大きく違っている。その原因については、現在のところ不明である。

今回のアンケートは、これまでのものとは異なりサンプル数が多い。この点を考慮すれば、今回の結果は、会計大学院の現状として半数程度の学生が受験勉強に多くの時間を費やしているという事実を示しているのかもしれない。

## 今後の対応

会計大学院は、公認会計士試験の受験勉強をする場ではないという観点からすれば、今回の結果は憂うべき事実かも知れない。しかし、学生の立場からすれば、受験勉強も重要であろう。この結果は、大学院教育の中で受験勉強をどのように捉えていくべきかという大きな問題を私たちに提起している。この問題については、今後、履修相談を通じて必要なデータを収集した上で、ある程度時間をかけて議論していく必要があるものと思われる。



質問項目 8：会計大学院では、学生への連絡システムとして e-mail を用いていますが、この連絡システムは役に立ちましたか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
役に立った	40.00%	55.56%	71.43%	62.50%
まあまあ役に立った	46.67%	22.22%	28.57%	33.33%
どちらともいえない	0.00%	11.11%	0.00%	2.08%
あまり役に立たなかった	13.33%	11.11%	0.00%	2.08%
役に立たなかった	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
回答数	15 人	9 人	7 人	48 人

#### 分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った。前回報告の結果と同様に、多くの学生はこのシステムを評価しているものと考えられる。

#### 今後の対応

会計大学院では、昨年 11 月より、公認会計士法等に関する情報を HP へ掲示するようにしている。今後とも、講義の連絡や講義資料等の掲示に加え、公認会計士試験などに関する情報を掲示するよう努めていきたい。

質問項目 9：在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
考えている	66.67%	55.56%	42.86%	72.92%
まだ決めていない	13.33%	11.11%	0.00%	4.17%
考えていない	20.00%	33.33%	57.14%	22.92%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
回答数	15 人	9 人	7 人	48 人

#### 分析と所見

この質問は前回のアンケートでも行った。前回の結果と比較すると、「考えている」という学生の割合が大幅に増加している。これまでのアンケート結果を考慮すれば、半数以上の学生が在学中に受験するものと考えられる。

#### 今後の対応

今年度私たちの卒業生が初めて公認会計士試験にチャレンジする。たとえば、科目免除を受けた卒業生の多くが合格するという結果ができれば、今後、在学中に受験を考える学生の割合も減り、在学中は大学院の学習に専念するという雰囲気生まれるかもしれない。しかし、不幸にして多くの合格者が出なかった場合には、在学中にも受験勉強を行い、在学中に受験する学生の割合が増えることも考えられる。

本大学院の教育は、課程を修了した時点での受験を前提にカリキュラムが組まれている。現時点では、会計大学院の本来の教育目的に沿った教育を行っていきたい。合わせて、初めての卒業生の受験結果なども分析しながら今後の対応を考えていきたい。

### 3.3. 自己評価と今後の課題

ここでは、設問 2 から 9 の分析結果から分かった問題点を明らかにし、今後の対応を示していきたい。質問項目 2（基礎、展開、実践・応用の科目配置）については、前回の報告で述べたとおり、アンケート時に「基礎」・「展開」・「実践・応用」の科目分類表を配布し、これを見ながらアンケートに回答してもらった。その結果、前回と比べて多少の改善が見られた。この質問項目では、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計ポイントが 8 割弱であり、特に大きな問題はないと考えられる。今後とも、学生に科目分類の意味を説明し、必要な資料を提供した上でアンケートを行っていききたい。

質問項目 3（ Semester 間の開設授業科目のバランス）については、2 年間を通じて見れば改善されたと言えるが、「適切である」と「ほぼ適切である」の合計ポイントが 5 割弱であり、満足のいくレベルに達しているとは言えない。この点については、今後の履修相談等を通じて、カリキュラムのどの部分のバランスに問題があるのかを具体的に見つけ出していく必要がある。

質問項目 4（オフィスアワーについて）は、これまでと同様に、全体的に利用する学生が少ないことは明らかである。オフィスアワーを利用しない理由を明らかにするため、今期の初めに行われた履修相談では、オフィスアワーに関する調査を行った。その結果、多くの学生が講義終了後に質問等を行っており、特にオフィスアワーを利用して質問は行っていないという現状が明らかになった。しかし、これが現状としても、オフィスアワーを利用しない学生が約 5 割存在するという事態は問題である。

本会計大学院では、きめの細かい履修指導・学習指導を行っていくことを教育サービスの特徴としている。もしかすると、私たちが開学当初に考えたオフィスアワーと学生が求めているオフィスアワーの間には何らかの乖離が存在することも考えられる。開学して 2 年、現時点において、学生がオフィスアワーを含めた教育サービスに対して何を期待しているのか、もう一度問い直す時期に来ているのかもしれない。2007 年度初めの履修相談では、この点に関する情報も収集し、対応を考えていきたい。

質問項目 5（履修指導）については、開学当初における「役に立った」と「まあまあ役に立った」の合計ポイントが 13% で、今回の合計ポイントが 50% である。この点をみれば、2 年間で大幅な改善がなされたといえる。また、私たち自身、大学院における履修相談が初めての経験であり、履修相談をどのように進めていけばいいのか分からず暗中模索の状態であった、ということを経験すれば、ある程度評価できるのではないと思われる。しかし、現時点における 50% という結果については満足のいくものではない。

この 2 年間で、履修相談マニュアルを整備し、履修相談の結果を運営委員会などで報告することにより情報の共有化をすすめてきた。このような方策は決して間違いではなかったと思われるが、今後、学生はどのような教育サービスを求めているのか、という点を念頭におきながら、履修指導のあり方を再考していきたい。

質問項目 6（GPA）については、開学当初における「適切である」と「ほぼ適切である」の合計ポイントが 13% で、今回の合計ポイントが 30% である。特に、開学当初に「適切である」と回答した学生はいなかった点を考慮すれば、ある程度学生の中に GPA の考え方が浸透してきたとも考えられる。

その理由としては、GPA が単なる成績評価の尺度ではなく、履修・学習に関して自己管理を行うための尺度であるとの説明を繰り返し行ってきたことをあげることができよう。しかし、現時点における 30% というポイントは、GPA が浸透しているとは言えないレベルである。

今年度から GPA を奨学金の返済に関する評価に利用している。この点については、オリエンテーション時に学生に説明しており、今後 GPA の向上を目指して履修計画を立てる学生が出てくることを期待している。

根本的な問題として、GPA が学生の能力を適切に測定できるのか、という問題がある。この点については、今年度行われる公認会計士試験の結果なども参考にしながら、その有効性を検証していきたい。

質問項目 7（受験勉強にかかる時間）は、約半数の学生が講義以外の受験勉強を 4 時間以上行ってい

ることを示しており、学生がこれまで以上に受験勉強に時間を費やすようになったことが分かる。

会計大学院は受験勉強のテクニックを教える場ではなく、会計と関連諸領域の学問について基本的な考え方を教え、この知識に基づき高度な分析能力を身につける場である。このため、今後、学生が受験勉強に多くの時間を割いた場合、会計大学院自体の教育目的を果たせなくなる恐れがある。今回の結果 40% は、これまででない高い水準であり、なぜ今回このような結果になったのか調査していきたい。

質問項目 8 (e-mail 等による連絡システム) については、開学以来高い水準で役立つという評価を得ている。特に、前期・今期とも 9 割以上の学生が、「役に立った」または「まあまあ役に立った」と回答している。これは、私たちの提供している連絡システムが、多くの学生に受けられていることの証左といえる。

私たちは、今後とも高い評価が得られるよう、学生の要望を聞きながら、e-mail や Web による連絡システムを充実させていきたいと考えている。

設問 9 (在学中の受験) は、7 割以上の学生が在学中の受験を考えていることを示している。本会計大学院のカリキュラムは、卒業した後に受験することを前提として組まれている。会計大学院の教育目的に照らせば、これが理想である。しかし、実際に受験する学生が 7 割以上いるという事実を鑑みれば、何らかの対策を取らざるをえないという時期がくることも予想される。現時点では、私たちが最初に掲げた教育目標に従い、初めての卒業生の受験結果なども分析しながら、今後の対応を考えていきたい。

### 3.4 自由記入欄の意見に対する若干のコメント

ここでは、自由記入欄に記述された意見のうち、本会計大学院のカリキュラム・教育全般にわたり重要と考えられるものについて若干のコメントを行う。

#### ・法律関連の講義に関して

今回のアンケートの回収数は50でしたが、その中で、公認会計士試験の科目となっている企業法・租税法・民法に関連する講義が少ないという回答が9ありました。

公認会計士試験の科目となっている法律関連の科目のうち、所得税法・消費税法については、平成18年度より非常勤講師を招き対応しています。しかし、ご指摘の通り、企業法・民法に関する科目が不足していることは事実と思われまます。

今後、私たちも皆さんの希望に沿うよう努力していきたいと思いますが、そのためには、皆さんの協力も必要です。たとえば、今回でもこの件に関してアンケートを通じて意見を述べてくれた学生は18%で2割に達していません。学生全体の比率からすると約1割にすぎません。開設する科目を増やすには多くの労力と資源が必要になります。皆さんの声が大きくなれば、今後、法律関連の科目の充実を図っていくことも可能かもしれません。アンケート・履修相談を通じて是非希望を述べていただくようお願いいたします。

法律関連の講義以外にも、簿記関連の実習を増やして欲しいとの意見を述べた人も4人いました。その内容が受験予備校で行っている答練のような講義を希望するのか、それとも、簿記の基本的な仕組みを理解するための講義を希望するのか、判別できませんでした。もし、前者ならば、会計大学院として開講すべき講義ではないと考えています。この件についても、意見がある場合、次回の講義アンケートや履修相談で具体的な内容などを述べてください。

#### 4. 「会計大学院の授業に関するアンケート」に関する分析

##### 4.1. アンケートの実施状況

2006 年度後期における開講講義数は 41 科目（集中講義含む）であり、そのうち履修者が 5 名以上の講義（27 科目）と科目担当教員がアンケートを希望した講義（1 科目）についてアンケートが実施された。

授業科目名	履修者数	回収数
財務諸表	38	27
上級財務諸表	10	8
事例研究（財務諸表）	6	7
上級財務諸表分析	8	6
財務諸表分析	28	19
簿記 2	19	10
事例研究（管理会計）	6	5
コストマネジメント	26	23
上級コストマネジメント	13	11
原価計算 2	36	38
内部統制の実務	39	33
監査計画の編成法 1	31	30
監査制度	38	37
上級監査制度	21	19
事例研究 2（監査制度）	16	17
ビジネス・プレゼンテーション 1	10	10
ビジネス・プレゼンテーション 2	5	5
事例研究 2（情報システム管理）	3	5
事例研究（法人税法）	8	8
事例研究 1（証券取引行政）	5	5
会社法	15	13
消費税	25	21
公会計	37	2
国際会計基準	39	26
企業開示制度の仕組みと実際	20	15
環太平洋経営事情	7	6
情報システム投資	7	3
会計職業倫理	22	13
合計	538	422

「履修者数」は履修登録を行った学生数であり、「回収数」は履修登録を行わず聴講している学生も含んでいる。

表 1：アンケート実施科目と回収数

今回のアンケートでは、延べ履修者数 538 名に対して 422 名から回答を得た。アンケートの回収率は 78.44% であり、前回の回収率 36.9% と比較すると回収率は高くなっている。

なお、質問項目 17 は科目担当教員が独自におこなう質問であり、質問項目 18 はすでに取得した資格に関するものなので、アンケートの集計には含めていない。

#### 4.2. アンケートに関する基本統計量

各設問の選択肢に付与された数字は、好ましい回答ほどその値が大きくなるよう設定されているため(設問1を除く)、この数値化によって回答の平均値、中央値、最頻値の算出を行った。その結果は以下のようになりである。(これまでに行ったアンケートの結果については巻末資料3を参照)

項目 \ 設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	18
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	386	360	23	27	54	92	211	255	193	201	170	124	237	170	205	2
4	10	40	17	17	23	242	140	114	141	140	145	145	135	125	113	2
3	15	8	27	32	42	69	58	33	53	52	87	118	25	81	62	36
2	5	3	58	93	71	15	6	13	23	15	10	19	13	19	9	114
1	4	8	110	151	89	3	5	7	12	10	7	13	6	17	4	20
0	0	2	186	99	132	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	420	421	421	419	411	421	420	422	422	418	419	419	416	412	393	174
平均値	4.83	4.76	1.16	1.54	1.75	3.96	4.30	4.41	4.14	4.22	4.10	3.83	4.40	4.00	4.29	2.58
中央値	5.00	5.00	1.00	1.00	1.00	4.00	5.00	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00	5.00	4.00	5.00	2.00
最頻値	5	5	0	1	0	4	5	5	5	5	5	4	5	5	5	2

表2：アンケートの基本統計量

#### 全体的な分析

- ・ 今回のアンケートでは、「会計大学院の授業に関するアンケート」についても講義中に回収を行ったため、これまでのアンケートと比較して回答数が倍増している。以下では、この点も考慮しながら分析を行う。
- ・ 質問項目3・4・5から、学生の学習時間が総じて増えていることが分かる。
- ・ 講義内容に関する設問については、概ね良好な回答結果ではあるが、殆どの設問で最上位の比率が前回より減少している。
- ・ 前回のアンケートと同様に、質問項目11(板書・プロジェクターの利用)を質問項目9に含めた。

質問項目間の相関関係をみるために相関係数の表を作成した。これは以下の通りである。（これまでに  
行ったアンケートの結果については巻末資料3を参照）

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	18
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1.00															
2 出席	.12	1.00														
3 予習	-.17	.01	1.00													
4 復習	-.06	.06	.58	1.00												
5 宿題	-.03	.06	.45	.41	1.00											
6 理解	.03	.03	.12	.07	.10	1.00										
7 難易度	.07	.03	.21	.14	.18	.45	1.00									
8 教員準備	.00	.04	.11	.12	.08	.46	.58	1.00								
9 プレゼン	-.03	.11	.16	.11	.10	.45	.43	.65	1.00							
10 教材	-.02	.09	.15	.16	.10	.51	.63	.65	.55	1.00						
12 評価方法	.01	-.04	.11	.07	.14	.44	.52	.50	.40	.52	1.00					
13 シラバス	-.03	.00	.14	.19	.15	.38	.42	.40	.47	.51	.52	1.00				
14 教員評価	-.07	.05	.16	.13	.13	.47	.59	.73	.69	.63	.53	.46	1.00			
15 対試験	.08	.02	.14	.28	.18	.35	.46	.41	.31	.48	.41	.39	.44	1.00		
16 キャリア	.08	-.05	.15	.14	.11	.40	.63	.55	.46	.56	.46	.38	.66	.45	1.00	
18 資格	-.05	-.03	.25	.10	.10	.12	.07	-.12	-.20	.00	.05	-.04	-.09	-.07	-.05	1.00

表3：質問項目間の相関係数

#### 全体的な分析

- これまでも見られた傾向であるが、「予習」、「復習」、「宿題」間の相関が比較的強く、学生は会計大学院向けの学習に割ける限られた時間をバランスよく配分していると考えられる。
- 「講義の理解度」・「講義の難易度」・「教員準備」・「プレゼンテーション」・「教材」・「評価方法」・「シラバス」・「教員評価」と相関が強いことが分かる。これは、教員が講義に関して学生から高い評価を得るためには、質問項目6から13までを総合的に考慮していく必要があることを示している。
- 「難易度」（会計大学院に相応しい講義レベルか否か）と「キャリア」の相関が強いが、これは「講義レベルが会計大学院に相応しい」と回答している者が「講義は会計士としてのキャリアに役立つ」、あるいは「講義レベルが会計大学院に相応しくない」と回答している者が「講義は会計士としてのキャリアに役立たない」と回答する傾向にあることを示している。これと比べて、「難易度」と「対試験」の相関は20ポイント弱小さい。これは会計大学院が公認会計士試験の受験対策を目的とした教育機関ではなく、質の良い会計プロフェッショナルを養成する大学院であるということが学生に正しく認識されてきたことの証しかもしれない。

#### 4.3. 質問項目ごとの集計結果と所見

今回のアンケートは、これまで行ってきたアンケートに比べて回収率が高い（2005年度前期：51.60%、2005年度後期：53%、2006年度前期：36.9%、今回：77.86%）。このため、今回の結果により、私たちは学生の学習状況や講義に対する評価をこれまで以上適切に把握することができる。

以下では、それぞれの質問項目について集計結果を示し、所見と今後の対応について述べることにする。なお、アンケート全体の集計結果については、巻末付録4を参照されたい。

##### 質問項目1：該当するものを選んでください（受講者属性）

###### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
公認会計士コース	69.54%	88.41%	82.11%	92.79%
高度会計職業人コース	9.20%	4.88%	5.96%	2.40%
経済経営学専攻	14.94%	3.66%	4.59%	3.61%
経済学部	6.32%	3.05%	7.34%	1.20%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	174	164	218	416

###### 分析と所見

会計大学院では、会計学に関する基本的な科目を学部学生が履修できるようにしている。後期に開講された科目の中にも学部学生が受講できる科目は存在したが、前期の科目にくらべて幾分アドバンストな内容の科目だったことから、学部生の受講者比率が減少していることが分かる。回収されたアンケートの9割以上が会計大学院の学生の回答であり、ここでの結果は、会計大学院学生の授業に対する評価と考えることができる。

###### 今後の対応

本会計大学院で行われている教育の主たる対象者は、会計大学院の学生である。このため、この項目に対して対応をする必要はないと考える。

##### 質問項目2：この講義にどのくらい出席しましたか。

###### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
90%以上	84.66%	85.28%	91.93%	85.92%
89-70%	9.66%	7.98%	4.04%	9.55%
69-50%	3.41%	1.84%	1.79%	1.91%
49-20%	0.57%	1.84%	0.90%	0.72%
20%未満	1.70%	3.07%	1.35%	1.91%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	176	163	223	419

###### 分析と所見

この質問は前回もを行っている。前回と同様に出席率は高く、70%以上出席している学生の割合は9割以上である。ただし、前期に比べると、90%以上の出席のポイントが減少している。これは、前期時点で課程修了に必要な単位を取得した学生もいたため、2年次の学生の出席率が下がったことも1つの原因として考えられる。

###### 今後の対応

前回の結果と同様に、多くの学生は会計大学院の講義に出席していることが分かる。今後ともこの出席率が維持されていくような講義を私たち教員が提供し続けてきたいと考える。



今回の結果から、前期時点で修了単位を取得している学生の出席率が低下しているのでは、という問題が浮上してきた。この点に関しては、次年度の2年生の履修状況・出席状況などを調査してみたい。

質問項目3：この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
5時間以上	2.86%	2.45%	1.79%	5.46%
4-5時間	2.29%	4.29%	1.79%	4.04%
3-4時間	7.43%	6.75%	2.69%	6.41%
2-3時間	9.71%	12.88%	17.94%	13.78%
1-2時間	25.14%	28.22%	22.42%	26.13%
1時間未満	52.57%	45.40%	53.36%	44.18%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	175	163	223	421

#### 分析と所見

この質問は前回も行っている。「5時間以上」、「4-5時間」、「3-4時間」が前回調査時よりも増加している。「1時間未満」の比率がこれまでの最小値となり、全体的に予習時間が増加しているので、良い傾向といえる。

#### 今後の対応

全体的に見て、予習をしてから講義に臨む学生が増えていることを意味しており、望ましい方向に向かっていると考えられる。

講義の予習に関しては履修相談のなかで調査を行った。そこで分かったことは、講義によって、予習時間が多く必要な科目と復習時間（宿題時間）に重点を置くべき科目が存在するという点であった。この点を考慮すれば、ここでの結果は、予習時間が極端に不足しているということにはならないかもしれない。しかし、予習時間1時間未満の学生が4割程度であり、やはり少ないという印象を受ける。

今後とも、教員は講義の中で予習の重要性を繰り返し説明し、予習が自然な形で行えるように教材を工夫していく必要がある。

質問項目4：この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか（宿題にかけた時間を除く時間を記入してください）。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
5時間以上	7.43%	3.70%	2.25%	6.44%
4-5時間	4.00%	4.32%	4.95%	4.06%
3-4時間	8.00%	9.88%	6.76%	7.64%
2-3時間	23.43%	16.67%	20.27%	22.20%
1-2時間	37.14%	38.27%	35.59%	36.04%
1時間未満	20.00%	27.16%	30.18%	23.63%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	175	162	222	419

#### 分析と所見

この質問は前回も行っている。これまで減少傾向にあった「5時間以上」が、わずかではあるが増加に転じ、1科目の復習に2時間以上掛けている学生比率が40%を回復しており、いい傾向といえる。一方、復習時間が2時間未満の学生の割合は6割弱で、これまでと比較して大きな改善は見られない。

## 今後の対応

今回の結果は、復習時間に若干の改善は見られたが、全体的に見れば復習時間が少ないという印象は拭いきれない。講義科目により復習時間が多く必要な科目が存在することは、履修相談における調査で分かっているので、今後は、科目ごとの復習時間を検証し、更なる分析をすすめていきたい。

1 講義あたりの復習時間・宿題時間が4～5時間程度必要なレベルの講義を提供するというのが、会計大学院開学時点での目標であった。アンケートの結果を見る限り、現時点でこの目標が達成されているとは言い難い。私たちは、講義の中で復習の重要性を説明すると同時に、自習のための教材なども考えていく必要があるように思える。

質問項目5：この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか。

## 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
5時間以上	27.17%	13.94%	10.36%	13.14%
4-5時間	12.14%	9.70%	7.66%	5.60%
3-4時間	13.87%	9.09%	12.16%	10.22%
2-3時間	21.39%	21.82%	17.12%	17.27%
1-2時間	10.98%	16.97%	31.53%	21.65%
1時間未満	14.45%	28.48%	21.17%	32.12%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	173	165	222	411

## 分析と所見

この質問は前回も行っている。今回の結果から、「5時間以上」・「1時間未満」とともに増加していることが分かる。「5時間以上」と回答した学生が、課題に熱心に取り組んだため多くの時間を必要としたのか、講義内容を十分に理解できないために多くの時間を必要としたのか、宿題の分量が多かったために多くの時間を必要としたのか、今回のデータから判別するのは難しい。一方、「1時間未満」の学生の比率は31%であり、これまでで一番悪い結果となっている。仮定ではあるが、宿題に対して熱心に取り組む学生とそうでない学生の二極分化が進んでいるのかもしれない。

## 今後の対応

質問項目4におけるコメントと重複するが、1講義あたりの復習時間・宿題時間が4～5時間程度必要なレベルの講義を提供するというのが、会計大学院開学時点での目標であり、現時点でこの目標は達成できていない。今後は、科目ごとに宿題にかかる時間を検証し、宿題のレベル・分量についても再考していく必要があると思われる。

質問項目 6：この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
理解できた	16.95%	15.76%	23.66%	21.85%
ほぼ理解できた	50.85%	50.91%	52.68%	57.48%
どちらともいえない	17.51%	19.39%	19.20%	16.39%
あまり理解できなかった	7.34%	8.48%	3.57%	3.56%
理解できなかった	7.34%	5.45%	0.89%	0.71%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	177	165	224	421

#### 分析と所見

この質問は前回も行っている。前回と同様に、約 8 割の学生が「理解できた」、または、「ほぼ理解できた」と回答している。しかし、これらの回答をした学生が本当に講義内容を理解しているのかが問題である。この点を明らかにするために、セメスター毎の平均 GPA を比較してみよう。

2005 年前期	2005 年後期	2006 年前期	2006 年後期
2.47	2.71	2.43	2.66

これまでの GPA 平均を、点数に換算すると 70 点台である。70 点台が講義を理解できたかどうかのメルクマールになるかについては意見の分かれるところであろう。本会計大学院では成績評価として絶対評価を用いているので、学生が講義内容を十分に理解している場合、GPA3 以上という高い評価を得ることが可能である。もし、8 割の学生が講義内容をほぼ理解できているならば、GPA の平均ももう少し高くなるはずである。この結果は、学生が理解していると考えられるレベルと私たち教員が求める理解レベルの間に差があることを示しているのかもしれない。

#### 今後の対応

今後、私たちが求めるレベルまで学生を教育していく方策を考えていく必要がある。このためには、GPA が学生の講義に対する理解度を評価するための尺度として有効であるかどうかを含め、講義において求められているレベルをシラバスや講義を通じてより明確に伝えていく必要があると考えられる。

質問項目 7:この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか。(この講義が、基礎、展開、実践・応用科目のどれに属しているかを考慮して回答してください)

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
適切	40.11%	35.76%	45.29%	50.24%
ほぼ適切	31.07%	32.12%	38.12%	33.33%
どちらともいえない	15.25%	16.97%	13.00%	13.81%
やや不適切	6.78%	8.48%	2.69%	1.43%
不適切	6.78%	6.67%	0.90%	1.19%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	177	165	223	420

#### 分析と所見

この質問は前回も行っている。「適切」、「ほぼ適切」で 8 割強を占めているのは前回と変化は無いが、「適切」だけに関してはいえば、5 ポイント増加しているのでいい傾向と言える。「やや不適切」、「不適切」が最小ポイントに抑えられているのも良いことではあるが、「どちらともいえない」が依然として横這いである。

#### 今後の対応

今回の結果は、前回同様、ほぼ満足すべきものといえる。ただし、「どちらともいえない」という回答は、回答者自身が講義内容を十分理解できていない場合にも選択され得るものと解釈するならば、この点について内容を検証していくことが必要かもしれない。

## 質問項目 8：教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？

### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
十分	53.67%	50.30%	63.84%	60.43%
ほぼ十分	23.16%	29.70%	25.89%	27.01%
どちらともいえない	11.30%	12.73%	7.59%	7.82%
やや不十分	6.21%	2.42%	2.23%	3.08%
不十分	5.65%	4.85%	0.45%	1.66%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	177	165	224	422

### 分析と所見

この質問は前回も行っている。90%弱の学生は「十分」、「ほぼ十分」と答えており、回答数が増加した点を考慮するならば、ほぼ満足のいく結果といえる。しかし、前回まで減少傾向にあった「やや不十分」、「不十分」が合わせて5%となったことは反省すべき点であり、その原因を探っていく必要がある。

### 今後の対応

この結果は約9割の学生が、教員の講義に対する準備について満足していることを示している。私たち教員は、今後ともこのような評価が得られるよう努力していきたい。

## 質問項目 9：教員の説明や声など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。

### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
良かった	55.68%	42.42%	59.82%	45.73%
まあまあ良かった	21.59%	28.48%	25.89%	33.41%
どちらともいえない	9.66%	13.94%	8.48%	12.56%
やや悪かった	7.39%	5.45%	3.57%	5.45%
悪かった	5.68%	9.70%	2.23%	2.84%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	176	165	224	422

### 分析と所見

この質問は前回も行っている。「良かった」が大幅に減少し50%を割っている。また、「まあまあ良かった」と合わせても80%を割っており、全体的に悪化している。客観的に判断すれば、教員のプレゼンテーションが悪くなっていると判断せざるをえない。

### 今後の対応

開学以来、「良かった」と「まあまあ良かった」の合計ポイントは、7割から8割程度であった。この点を考えれば、今回の変化も許容範囲内といえるかもしれない。しかし、前回からの傾向で、プレゼンテーションが悪くなっているという点は見逃せない。この点については、会計大学院のFDを通じて教員に説明し、改善策を議論していく必要があるように思える。

質問項目 10：テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
適切	46.02%	46.34%	54.71%	48.09%
ほぼ適切	25.00%	28.66%	30.49%	33.49%
どちらともいえない	14.77%	13.41%	9.87%	12.44%
やや不適切	6.25%	4.27%	3.59%	3.59%
不適切	7.95%	7.32%	1.35%	2.39%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	176	164	223	418

#### 分析と所見

この質問は前回も行っている。「適切」が減少しているものの、「ほぼ適切」と合わせて 80% は維持している。設問 6 の理解度に関する回答と相関が強いため、講義内容を理解できた者にはある程度評価されていると思われる。

#### 今後の対応

この結果は、約 8 割の学生が、講義で用いられたテキスト・参考書・プリントについて満足していることを示している。今後とも、私たち教員は、適切と思われるテキストや参考書を選び、有効な講義資料を作成していきたいと考えている。

質問項目 12：この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
適切	40.11%	35.37%	44.20%	40.57%
ほぼ適切	26.55%	35.98%	36.16%	34.61%
どちらともいえない	19.77%	15.24%	16.07%	20.76%
やや不適切	6.21%	8.54%	1.79%	2.39%
不適切	7.34%	4.88%	1.79%	1.67%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	177	164	224	419

#### 分析と所見

この質問は前回も行っている。「適切」・「ほぼ適切」と回答した学生が約 75% いる反面、「どちらともいえない」以下、成績評価に必ずしも満足していない学生が 25% に達している。シラバスに記載の評価方法そのものが好ましくないのか、あるいはシラバス通りに評価が行われていないから満足していないのか不明であるが、改善傾向にあった項目ゆえ残念である。成績評価は学生にとって最重要項目であるため、この点における学生の満足度は大学院の評価に大きく反映されるものと思われる。教員はより慎重に成績評価を行う必要がある。

#### 今後の対応

この結果は、75% の学生が成績評価を適切なものと見なしていることを示しており、ほぼ満足すべき結果といえるが、残りの 25% の学生について、どのような点に不満を持っているか調査する必要がある。2007 年度前期の履修相談ではこの点を調査し、その結果を FD 等を通じ各教員に連絡し改善策を考えていきたい。

質問項目 13：この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
役に立った	19.32%	24.24%	33.93%	29.59%
まあまあ役に立った	27.27%	21.82%	33.48%	34.61%
どちらともいえない	29.55%	32.12%	24.55%	28.16%
あまり役に立たなかった	14.20%	11.52%	6.25%	4.53%
役に立たなかった	9.66%	10.30%	1.79%	3.10%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	176	165	224	419

#### 分析と所見

この質問は前回も行っている。シラバスは年度始めに作成されていたものであり、前期のアンケート調査結果を受けて改定できるものではないため、今回の結果を前回の結果と単純に比較できない。比較するとすれば、2005 年度後期の結果であろう。

2005 年度後期において「役に立った」・「まあまあ役に立った」の合計ポイントは、46% であり、今回は 63% である。この点を見れば、今年度のシラバスに改善がみられたものと解釈できる。しかし、本会計大学院では当初からシラバスの充実を掲げており、「役に立った」・「まあまあ役に立った」の合計ポイントが 70% に満たないのは、今後シラバスを改善していかなければならないことを示唆している。

#### 今後の対応

今年度シラバスを大幅に改訂した。その結果として、前年度と比べて評価のポイントが上がったものと考えられる。本会計大学院のシラバスは、単なる講義内容の紹介だけではなく、予習・復習等にも利用できるように編集している。履修相談においても、この点を学生に説明し、シラバスの積極的な利用を促している。今後は、このような説明を続けていく一方で、現在のシラバスの具体的な問題点を洗い出し、さらに補助教材としても利用できるシラバスを作っていく。

質問項目 14：総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
評価できる	53.67%	44.85%	57.40%	56.97%
まあまあ評価できる	24.29%	32.12%	29.15%	32.45%
どちらともいえない	10.17%	10.30%	10.31%	6.01%
あまり評価できない	5.08%	6.67%	2.24%	3.13%
評価できない	6.78%	6.06%	0.90%	1.44%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	177	165	223	416

#### 分析と所見

この質問は前回も行っている。「評価できる」・「まあまあ評価できる」の合計ポイントが約 9 割という高水準を維持しており、全体的に見て、教員は高い評価を受けていることが分かる。開学初年度における「評価できる」・「まあまあ評価できる」の合計ポイントが 70% 台だった点を考慮するならば、2 年目において教員に対する評価が上がっているとも解釈できる。

#### 今後の対応

この結果は多くの学生が、会計大学院の教員を評価していることを示しているが、私たち教員は、この結果に満足せず、「評価できる」のポイントが 70% 程度まであがるよう努力していきたい。

本会計大学院では、科目に関するアンケートの結果を各教員に返却している。今回の成果は、各教員がアンケートの結果などを見て講義の改善を行った結果とも考えられるが、今後は、各教員が直面する問題などを FD などで率直に意見交換していく必要があると思われる。

質問項目 15：この講義は、公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
役立つ	30.29%	32.28%	41.18%	41.26%
まあまあ役に立つ	24.57%	29.11%	34.39%	30.34%
どちらともいえない	20.00%	20.25%	14.93%	19.66%
あまり役に立たない	8.57%	10.76%	5.88%	4.61%
役に立たない	16.57%	7.59%	3.62%	4.13%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	175	158	221	412

#### 分析と所見

この質問は前回も行っている。会計大学院は公認会計士試験対策のための教育を行う場ではないので、「役立つ」・「まあまあ役に立つ」の合計ポイントが70%程度であれば、十分ではないかと考えられる。

#### 今後の対応

この結果は、30%程度の学生が、会計大学院における講義と公認会計士の試験が直接的に結びつかないと考えていることを示している。会計大学院の講義は、受験予備校のように受験のテクニックを教えるものではなく、職業会計人として必要とされるものの見方・考え方を教えることが目的であるという点を考慮すれば、このような評価がなされることは避けられないものとする。

一方、公認会計士試験に関係することを講義の中で扱って欲しいという学生の希望もあることは、私たち自身認識している。平成18年度に実施された新制度の試験問題等を分析しながら、私たちの理想とする大学院教育の中で、公認会計士試験に関連するトピックをどのような形で取り入れていくかを考えていくことも必要であろう。

質問項目 16：この講義は、公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか。

#### 集計結果

選択項目	2005 前期	2005 後期	2006 前期	2006 後期
役立つ	42.44%	43.40%	49.25%	52.16%
まあまあ役に立つ	29.07%	28.30%	30.85%	28.75%
どちらともいえない	19.19%	14.47%	16.42%	15.78%
あまり役に立たない	2.91%	7.55%	1.00%	2.29%
役に立たない	6.40%	6.29%	2.49%	1.02%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
人数	172	159	201	393

#### 分析と所見

この質問は前回も行っている。「役立つ」という回答が順調に増加している。私たちは、機会があるごとに、本会計大学院の目的は、高度な分析能力を持った職業会計人を養成することであり、単に受験テクニックを教えることではない、ということの説明してきた。今回の結果は、私たちが本会計大学院で行っている教育の意図が学生にも徐々に受け入れられてきたことの1つのあらわれではないかと考えられる。しかし、会計大学院の設立趣旨を考えれば、この回答をさらに伸ばしてゆく必要がある。

#### 今後の対応

この結果は、7割以上の学生が会計大学院の講義を公認会計士となってからのキャリアにおいて役立つものとみなしていることを示している。本会計大学院の設立趣旨に鑑みれば、これは望ましい結果といえる。

私たち、教員はこの結果に満足せず、80%以上の学生からこのような評価が得られるよう努力していくべきであるとする。この目標を達成していくためには、従来通り、会計大学院の教育目的を学生に説明し、加えて、講義の中に実務的な要素を盛り込んでいくことが必要であろう。

#### 4.4 自己評価と今後の課題

今年度、本大学院は初めて卒業生を送り出すことができた。この意味で今回のアンケートは開設以来2年間の総括とも言える。そこで、今回は2年間の自己評価を行いながら、今後の課題を検討していく。

質問項目2（講義への出席）については、2年間を通じて8割以上の高い出席率を維持しており、学生の出席意欲が高いことが分かる。しかし、授業の予習を十分にしてから出席する学生の割合は低い、この点を考慮するならば、単に授業に出席するだけで十分であるとの意識を多くの学生が持っていることが懸念される。講義は学習の一部であり、自主的な学習の必要性を、今後とも学生に説明していく必要があるように思われる。

質問項目3・4・5は、いずれも学生の学習時間に関するものである。2年間を通じて、質問項目3・4について検討すると、学生の学習時間について次のようなことが分かる。

- ・ 平均予習時間：1時間未満の学生が約半数
- ・ 平均復習時間：1～2時間の学生が約3分の1

ここでの集計結果は当該セメスターに開講された科目の平均値であり、科目ごとに必要となる予習・復習時間にバラツキがあることを考慮したとしても、大学院生の学習時間としては少ない印象を受ける。また、質問項目5については、宿題にかかる時間が減ってきていることが問題である。「会計大学院のカリキュラムに等に関するアンケート」の質問項目7（受験勉強にかかる時間）の結果と合わせると、学生が学習時間を大学院の講義にではなく、受験勉強に振り向けているのではないかと、という仮説が浮かび上がってくる。もしこれが事実とするならば、本会計大学院にとって大きな問題となる。

私たちは、本会計大学院の講義が職業会計人になってから役立つものであることを講義を通じて学生に説明していく必要がある。このためには、講義の内容・方法・教材などを改めて考えてみる必要があるだろう。

質問項目6～10は講義に関するものであり、教員評価と相関を持つことが分かった。これらの項目は、2年間を通じて高い評価を得ている。また、開学当初と今期の結果を比較すれば、ほとんどの項目で評価が高くなっている。私たちはこの結果に満足せず、より高い評価を得られるよう今後とも努力していきたい。

質問項目12は成績評価に関するものである。この項目については2年間を通じて7割以上の学生が、「適切」または「ほぼ適切」という評価を行っている。本会計大学院では、シラバスに評価基準を明記し、レポート・宿題・テストについては解答・採点基準と採点結果を公表するよう各教員に依頼している。2年間を通じて高い評価を得られた1つの要因として、このような教員の努力をあげることができる。

一方、「どちらともいえない」と回答している学生が2割程度存在し、これらの学生は成績評価に対して潜在的に不満を持っていると考えられるので、今後、履修相談等を通じ学生の意見を収集し、何らかの対策を立てていくことが必要と考えられる。同時に、私たちはFDを通じて成績評価に関して意見を交換し、学生の学習成果を適切に測定できる方法を考えていくべきであろう。

質問項目13はシラバスに関するものであり、2006年度になって6割以上の学生から「役に立った」または「まあまあ役に立った」という評価を得られるようになった。その1つの要因としては、2006年度にシラバスを大きく改訂したことがあげられる。

本会計大学院のシラバスは、単に講義内容の紹介だけではなく、補助教材としての機能をもつものとして作成している。この点を考慮するならば、今回の結果に満足することはできない。今後とも、学生がシラバスにどのような情報の掲載を望んでいるのか、という点を念頭に置きながらシラバスを改善していきたい。



質問項目 14 は教員に対する評価である。今期における評価は 9 割弱の学生が「評価できる」・「まあまあ評価できる」と回答しており、開設当初の 8 割弱という回答からは改善が見られる。

本会計大学院では、教員が自ら講義の改善を行えるよう、各教員にアンケートの集計結果を全体の平均と比較できるようにグラフ化し、また、自由記入欄については手を加えずそのままの形で各教員へ配布している。2 年間で教員の評価に改善が見られたのは、このような活動の成果ともいえる。しかし、質問項目 14 でも述べたように、私たちはこの結果に満足すべきではなく、「評価できる」と回答する学生が 7 割以上となるよう今後とも努力していきたいと考えている。

質問項目 15 は、講義が公認会計士試験に役立つかどうかを聞いたものである。この結果から、6 割から 7 割の学生が、本会計大学院の講義を受験にも役立つものと捉えていることが分かる。この結果については評価が分かれるところであろう。すなわち、会計大学院は受験テクニックを教える場ではないと考えれば、この質問項目がこれほど高いポイントとなることに大きな意味を持たない、という考え方もあるだろう。しかし、私たちは現状を認識し、ある程度試験のことも意識しながら、講義を組み立てていくことも必要なのかもしれない。

質問項目 16 は、本会計大学院の講義が公認会計士となってから役立つかどうかを聞いたものである。この質問項目は、会計大学院の教育目的を考えた場合、私たちにとって一番重要な意味を持つ項目である。2 年間を通じて、約 7 割の学生が「役に立つ」または「まあまあ役に立つ」と回答しており、本会計大学院の目指す方向がある程度学生に受け入れられているものと考えられる。今後も、学生に本会計大学院の教育目的・方針を機会を捉えて説明すると同時に、講義についても工夫していきたい。できれば、8 割以上の学生から高い評価が得られるよう努力していきたい。

この質問項目に対する真の回答を得るのは、私たちの卒業生が公認会計士となってからであり、本会計大学院の教育方針が正しかったのか、それとも、間違っていたのか、が明らかになるのは数年待たなければならないであろう。本会計大学院では、卒業生のメーリングリストを作成し、卒業後も大学院と連絡が取れるようなシステムを構築した。今後、この連絡システムを用いて、卒業生の意見も聞いていきたいと考えている。

付録1：会計大学院のカリキュラム等に関するアンケート（2006年度後期）

このアンケートは、学生諸君の意見を会計大学院のカリキュラムの改善に役立てることを目的に行うものです。結果は報告書としてとりまとめます。

1. 該当するものを選んでください。

- (5) 公認会計士コース (4) 高度会計職業人コース (3) 経済経営学専攻 (2) 経済学部

2. 基礎、展開、実践・応用の科目配置は適切だと思いますか。

- (5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない  
(2) やや不適切である (1) 不適切である

補足説明（分類については、「科目一覧\_基礎展開実践.xls」を参照）

基礎科目：科目が属する領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提として、高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎科目または応用科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

3. セメスター間の開設授業科目のバランスは適切だと思いますか。

- (5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない  
(2) やや不適切である (1) 不適切である

4. オフィスアワーを利用しましたか。教員に履修相談・質問等を行った回数を書いてください。

- (5) 5回以上 (4) 4回または3回 (3) 2回 (2) 1回 (1) 利用しなかった

5. セメスター開始時に行われる履修指導は、学習計画を立てる上で役に立ちましたか。

- (5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない  
(2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった

6. 本大学院ではGPAによる成績評価を用いていますが、GPAによって学生の能力は適切に評価できると思いますか。

- (5) 適切である (4) ほぼ適切である (3) どちらともいえない  
(2) やや不適切である (1) 不適切である

7. 講義の予習・復習・宿題にかかる時間以外に、公認会計士試験のための自主学習には1日平均何時間くらいかけていますか。

- (5) 5時間以上、 (4) 4-5時間 (3) 3-4時間 (2) 1-3時間 (1) していない

8. 会計大学院では、学生への連絡システムとしてe-mailとHPによる掲示を用いていますが、このシステムは役に立ちましたか。

- (5) 役に立った (4) まあまあ役に立った (3) どちらともいえない  
(2) あまり役に立たなかった (1) 役に立たなかった

9. 在学中に公認会計士試験を受験しようと考えていますか。

- (5) 考えている (4) まだ決めていない (3) 考えていない

質問10（3科目以内）

自由記入欄（会計大学院に対する感想、会計大学院に要望することなどを自由に記入してください。また上のアンケートの各項目について、より詳しい意見を述べたい場合にも、ここに記入してください。）

—以上です。協力に感謝します。

付録2：会計大学院の授業に関するアンケート（2006年度後期）

このアンケートは、会計大学院の授業の改善に学生諸君の意見を生かそうとするものです。結果は報告書としてとりまとめます。

授業科目名（マークシート用紙に記入）

※注意：この科目が、基礎科目、展開科目、実践・応用科目のどれに該当するか、シラバス等で確認して下さい。

回答者属性

1. 該当するものを選んでください。

- (5) 公認会計士コース    (4) 高度会計職業人コース    (3) 経済経営学専攻    (2) 経済学部

科目内容について

2. この講義にどのくらい出席しましたか。

- (5)90%以上    (4)89-70%    (3)69-50%    (2)49-20%    (1)20%未満

3. この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか。

- (5)5時間以上    (4)4-5時間    (3)3-4時間    (2)2-3時間    (1)2-1時間    (0)1時間未満

4. この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか。（宿題にかけた時間を除く時間を記入してください）

- (5)5時間以上    (4)4-5時間    (3)3-4時間    (2)2-3時間    (1)2-1時間    (0)1時間未満

5. この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか。

- (5)5時間以上    (4)4-5時間    (3)3-4時間    (2)2-3時間    (1)2-1時間    (0)1時間未満

6. この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。

- (5)理解できた    (4)ほぼ理解できた    (3)どちらともいえない  
(2)あまり理解できなかった    (1)理解できなかった

7. この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか。（この講義が、基礎、展開、実践・応用科目のどれに属しているかを考慮して回答してください。なお当該科目がどの分類に属しているかはアンケート記入用紙に印刷されています。）

- (5)適切である    (4)ほぼ適切である    (3)どちらともいえない  
(2)やや不適切である    (1)不適切である

補足説明（分類については、「科目一覧\_基礎展開実践.xls」を参照）

基礎科目：科目が属する領域（会計・経済と経営・ITと統計・法と倫理）を学ぶ上で基礎となる内容を学習する。

展開科目：基礎科目の理解を前提として、高度な内容を学習する。

実践・応用科目：基礎科目または応用科目で学んだ内容が、実際にどのように応用されていくのかを学習する。

8. 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか？

- (5)十分だった    (4)ほぼ十分だった    (3)どちらともいえない  
(2)やや不十分だった    (1)不十分だった

9. 教員の説明や声など、授業でのプレゼンテーション（板書・プロジェクター等の利用も含む）は良かったですか。

- (5)良かった    (4)まあまあ良かった    (3)どちらともいえない  
(2)やや悪かった    (1)悪かった

10. テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。

- (5)適切である    (4)ほぼ適切である    (3)どちらともいえない  
(2)やや不適切である    (1)不適切である

11. 質問項目 9 に含めました。今回のアンケートでは、この設問はありません。記入欄 11 には記入しないで下さい。

12. この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。

- (5) 適切である           (4) ほぼ適切である           (3) どちらともいえない  
(2) やや不適切である           (1) 不適切である

13. この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。

- (5) 役に立った           (4) まあまあ役に立った   (3) どちらともいえない  
(2) あまり役に立たなかった   (1) 役に立たなかった

14. 総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。

- (5) 評価できる           (4) まあまあ評価できる   (3) どちらともいえない  
(2) あまり評価できない(1) 評価できない

15. この講義は、公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。

- (5) 役立つ           (4) まあまあ役に立つ           (3) どちらともいえない  
(2) あまり役に立たない   (1) 役に立たない

16. この講義は、公認会計士になってからのキャリアにおいて役立つと思いますか。

- (5) 役立つ           (4) まあまあ役に立つ           (3) どちらともいえない  
(2) あまり役に立たない   (1) 役に立たない

17. (自由質問) 教員がアンケートの際に行った質問に回答してください。

- (5)           (4)           (3)           (2)           (1)

その他質問 (自由記入欄に番号を記入して下さい。(6)については具体的に記入して下さい)

18. 既に合格した資格試験等について教えてください。(複数解答可)

- (5) 税理士会計科目           (4) 公認会計士短答式           (3) 日商簿記 1 級  
(2) 日商簿記 2 級           (1) 日商簿記 3 級           (6) その他

—以上です。協力に感謝します。

自由記入欄 (この授業の感想、担当教員に要望することなどを自由に記入して下さい。また上のアンケートの各項目について、より詳しい意見を述べたい場合にも、ここに記入して下さい。)

付録3：「会計大学院の授業に関するアンケート」のこれまでの結果

2005 年前期

度数分布表

項目 \ 設問	1 属性	2 出席	3 予習	4 復習	5 宿題	6 理解	7 難易度	8 教員準備	9 プレゼン	10 教材	11 板書 機材	12 評価 方法	13 シラ バス	14 教員 評価	15 対 試 験	16 キャ リア
5	121	149	5	13	47	30	71	95	98	81	67	71	34	95	53	73
4	16	17	4	7	21	90	55	41	38	44	53	47	48	43	43	50
3	26	6	13	14	24	31	27	20	17	26	32	35	52	18	35	33
2	11	1	17	41	37	13	12	11	13	11	18	11	25	9	15	5
1	1	3	44	65	19	13	12	10	10	14	7	13	17	12	29	11
0	0	1	92	35	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	175	177	175	175	173	177	177	177	176	176	177	177	176	177	175	172
平均値	4.40	4.72	0.90	1.61	2.80	3.63	3.91	4.13	4.14	3.95	3.88	3.86	3.32	4.13	3.43	3.98
中央値	5.00	5.00	0.00	1.00	3.00	4.00	4.00	5.00	5.00	4.00	4.00	4.00	3.00	5.00	4.00	4.00
最頻値	5	5	0	1	5	4	5	5	5	5	5	5	3	5	5	5

相関係数表

設問	1 属性	2 出席	3 予習	4 復習	5 宿題	6 理解	7 難易度	8 教員準備	9 プレゼン	10 教材	11 板書 機材	12 評価 方法	13 シラ バス	14 教員 評価	15 対 試 験	16 キャ リア
1 属性	1.00															
2 出席	.03	1.00														
3 予習	-.05	.11	1.00													
4 復習	-.17	.02	.40	1.00												
5 宿題	.02	.27	.16	.23	1.00											
6 理解	.03	.13	.03	.00	-.05	1.00										
7 難易度	-.07	-.01	.00	.07	-.14	.62	1.00									
8 教員準備	-.05	.01	-.04	.01	-.20	.63	.75	1.00								
9 プレゼン	-.21	.02	-.05	.03	-.07	.51	.67	.69	1.00							
10 教材	-.15	.00	.07	.05	-.18	.62	.68	.64	.64	1.00						
11 板書・機材	-.19	.00	.01	.07	-.07	.49	.71	.68	.75	.64	1.00					
12 評価方法	-.11	-.07	.14	-.03	-.17	.47	.53	.52	.44	.59	.49	1.00				
13 シラバス	-.17	.07	.14	.10	-.05	.47	.57	.43	.49	.56	.46	.47	1.00			
14 教員評価	-.19	.00	-.02	-.04	-.16	.56	.80	.74	.74	.72	.74	.53	.53	1.00		
15 対試験	.02	.10	.06	.19	-.05	.31	.41	.33	.32	.34	.40	.23	.28	.38	1.00	
16 キャリア	.01	-.01	.05	.00	-.11	.53	.62	.56	.58	.61	.60	.47	.50	.67	.53	1.00

2005 年後期

度数分布表

項目 \ 設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	板書機材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア
5	145	139	4	6	23	26	59	83	70	76	59	58	40	74	51	69
4	8	13	7	7	16	84	53	49	47	47	36	59	36	53	46	45
3	6	3	11	16	15	32	28	21	23	22	42	25	53	17	32	23
2	5	3	21	27	36	14	14	4	9	7	16	14	19	11	17	12
1	1	5	46	62	28	9	11	8	16	12	12	8	17	10	12	10
0	0	1	74	44	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	165	164	163	162	165	165	165	165	165	164	165	164	165	165	158	159
平均値	4.76	4.68	1.04	1.37	1.96	3.63	3.82	4.18	3.88	4.02	3.69	3.88	3.38	4.03	3.68	3.95
中央値	5.00	5.00	1.00	1.00	2.00	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	4.00	4.00	3.00	4.00	4.00	4.00
最頻値	5	5	0	1	0	4	5	5	5	5	5	4	3	5	5	5

相関係数表

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	板書機材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア
1 属性	1.00															
2 出席	.03	1.00														
3 予習	.01	.09	1.00													
4 復習	-.02	.18	.42	1.00												
5 宿題	-.08	.09	.31	.24	1.00											
6 理解	-.03	.36	.23	.19	.22	1.00										
7 難易度	-.03	.31	.29	.29	.25	.50	1.00									
8 教員準備	-.22	.18	.00	.13	.19	.49	.57	1.00								
9 プレゼン	-.18	.32	.19	.16	.17	.53	.64	.61	1.00							
10 教材	-.14	.28	.14	.19	.17	.50	.72	.62	.66	1.00						
11 板書・機材	-.11	.19	.22	.14	.24	.42	.64	.53	.74	.62	1.00					
12 評価方法	-.19	.18	.18	.17	.31	.46	.52	.62	.50	.56	.53	1.00				
13 シラバス	-.05	.26	.18	.20	.13	.38	.53	.40	.48	.59	.46	.40	1.00			
14 教員評価	-.17	.42	.19	.25	.26	.53	.75	.66	.79	.73	.72	.66	.54	1.00		
15 対試験	-.01	.33	.26	.41	.12	.29	.51	.29	.40	.52	.35	.29	.36	.51	1.00	
16 キャリア	-.04	.38	.26	.28	.23	.42	.70	.46	.65	.73	.56	.49	.51	.73	.61	1.00

2006 年前期

度数分布表

項目 \ 設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	18
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
5	179	205	4	5	23	53	101	143	134	122	99	76	128	91	99	1
4	13	9	4	11	17	118	85	58	58	68	81	75	65	76	62	0
3	10	4	6	15	27	43	29	17	19	22	36	55	23	33	33	12
2	16	2	40	45	38	8	6	5	8	8	4	14	5	13	2	77
1	6	3	50	79	70	2	2	1	5	3	4	4	2	8	5	20
0	0	0	119	67	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	224	223	223	222	222	224	223	224	224	223	224	224	223	221	201	110
平均値	4.53	4.86	0.83	1.27	1.85	3.95	4.24	4.50	4.38	4.34	4.19	3.92	4.40	4.04	4.23	1.99
中央値	5.00	5.00	0.00	1.00	1.00	4.00	4.00	5.00	5.00	5.00	4.00	4.00	5.00	4.00	4.00	2.00
最頻値	5	5	0	1	1	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	2

相関係数表

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	18
	属性	出席	予習	復習	宿題	理解	難易度	教員準備	プレゼン	教材	評価方法	シラバス	教員評価	対試験	キャリア	資格
1 属性	1.00															
2 出席	.09	1.00														
3 予習	-.10	.05	1.00													
4 復習	.06	.08	.35	1.00												
5 宿題	-.01	.14	.40	.30	1.00											
6 理解	.15	.00	.14	-.09	-.11	1.00										
7 難易度	.08	.11	.08	.04	-.04	.28	1.00									
8 教員準備	-.03	.08	.15	.08	.15	.23	.34	1.00								
9 プレゼン	-.08	.03	.21	.10	.09	.19	.42	.47	1.00							
10 教材	-.07	.03	.11	.06	-.03	.30	.36	.52	.46	1.00						
12 評価方法	-.10	.09	.10	.01	.05	.18	.27	.29	.31	.32	1.00					
13 シラバス	-.15	.06	.16	.10	.09	.04	.30	.17	.39	.26	.37	1.00				
14 教員評価	.00	.07	.03	.05	.02	.33	.47	.50	.57	.54	.42	.28	1.00			
15 対試験	.11	.08	-.04	.25	-.05	.15	.37	.33	.16	.40	.27	.18	.34	1.00		
16 キャリア	-.04	.12	.07	.06	.08	.15	.45	.38	.38	.37	.30	.31	.60	.40	1.00	
18 資格	.02	-.12	.14	.19	-.25	.00	-.07	-.03	.05	.05	.09	.06	-.15	-.07	-.27	1.00

付録4：アンケート集計結果

	選択項目	人数	割合		選択項目	人数	割合			
設問1 回答者属性	公認会計士コース	386	92.79%	設問9 教員の説明や声など、授業でのプレゼンテーションは良かったですか。	良かった	193	45.73%			
	高度会計職業人コース	10	2.40%		まあまあ良かった	141	33.41%			
	経済経営学専攻	15	3.61%		どちらともいえない	53	12.56%			
	経済学部	5	1.20%		やや悪かった	23	5.45%			
	合計	416	100.00%		悪かった	12	2.84%			
設問2 この講義にどのくらい出席しましたか。	90%以上	360	85.92%	合計	422	100.00%	設問10 テキスト・参考書あるいはプリント等は適切でしたか。	適切	201	48.09%
	89-70%	40	9.55%	ほぼ適切	140	33.49%				
	69-50%	8	1.91%	どちらともいえない	52	12.44%				
	49-20%	3	0.72%	やや不適切	15	3.59%				
	20%未満	8	1.91%	不適切	10	2.39%				
合計	419	100.00%	合計	418	100.00%	設問12 この講義の成績評価の方法は適切だと思いますか。	適切	170	40.57%	
設問3 この講義の予習にどのくらいの時間をかけましたか。	5時間以上	23	5.46%	ほぼ適切	145		34.61%			
	4-5時間	17	4.04%	どちらともいえない	87		20.76%			
	3-4時間	27	6.41%	やや不適切	10		2.39%			
	2-3時間	58	13.78%	不適切	7		1.67%			
	1-2時間	110	26.13%	合計	419	100.00%				
1時間未満	186	44.18%	設問13 この講義のシラバスは講義を理解する上で役に立ちましたか。	役に立った	124	29.59%				
合計	421	100.00%		まあまあ役に立った	145	34.61%				
設問4 この講義の復習にどのくらいの時間をかけましたか。	5時間以上	27		6.44%	どちらともいえない	118	28.16%			
	4-5時間	17		4.06%	あまり役に立たなかった	19	4.53%			
	3-4時間	32		7.64%	役に立たなかった	13	3.10%			
	2-3時間	93	22.20%	合計	419	100.00%				
	1-2時間	151	36.04%	設問14 総合的に見て、この講義を担当した教員をどう評価しますか。	評価できる	237	56.97%			
1時間未満	99	23.63%	まあまあ評価できる		135	32.45%				
合計	419	100.00%	どちらともいえない		25	6.01%				
設問5 この講義の宿題にどのくらいの時間をかけましたか。	5時間以上	54	13.14%		あまり評価できない	13	3.13%			
	4-5時間	23	5.60%		評価できない	6	1.44%			
	3-4時間	42	10.22%	合計	416	100.00%				
	2-3時間	71	17.27%	設問15 この講義は公認会計士試験を受験する上で役に立つと思いますか。	役立つ	170	41.26%			
	1-2時間	89	21.65%		まあまあ役に立つ	125	30.34%			
1時間未満	132	32.12%	どちらともいえない		81	19.66%				
合計	411	100.00%	あまり役に立たない		19	4.61%				
設問6 この講義の内容をどの程度理解できたと思いますか。	理解できた	92	21.85%		役に立たない	17	4.13%			
	ほぼ理解できた	242	57.48%	合計	412	100.00%				
	どちらともいえない	69	16.39%	設問16 この講義は公認会計士になってからのキャリアに役立つと思いますか。	役立つ	205	52.16%			
	あまり理解できなかった	15	3.56%		まあまあ役に立つ	113	28.75%			
	理解できなかった	3	0.71%		どちらともいえない	62	15.78%			
合計	421	100.00%	あまり役に立たない		9	2.29%				
設問7 この講義のレベルは会計大学院の講義として適切だと思いますか。	適切	211	50.24%		役に立たない	4	1.02%			
	ほぼ適切	140	33.33%	合計	393	100.00%				
	どちらともいえない	58	13.81%	設問18 既に合格した資格試験等について教えてください。	税理士会計科目	2	1.15%			
	やや不適切	6	1.43%		公認会計士短答式	2	1.15%			
	不適切	5	1.19%		日商簿記1級	36	20.69%			
合計	420	100.00%	日商簿記2級		114	65.52%				
設問8 教員のこの講義に対する準備は十分でしたか。	十分	255	60.43%		日商簿記3級	20	11.49%			
	ほぼ十分	114	27.01%	合計	174	100.00%				
	どちらともいえない	33	7.82%							
	やや不十分	13	3.08%							
	不十分	7	1.66%							
合計	422	100.00%								

注) 設問の文言は本来のものと若干異なります。



## 2006年度 東北大学会計大学院ワークショップ委員会

委員長	青木 雅明
委員	伊藤 健
委員	榎本 正博
委員	小沢 浩
委員	乙政 正太

会計大学院アンケート実施報告書 2006年度後期

2007年 6月 22日発行

編集・発行： 東北大学会計大学院ワークショップ委員会